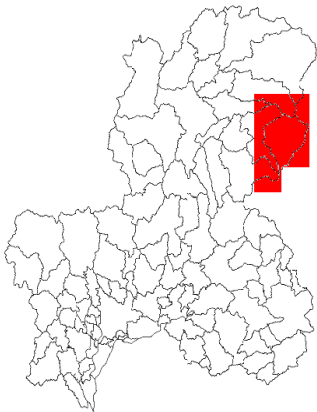


クロツバラ	<i>Rhamnus davurica</i> Pall. var. <i>nipponica</i> Makino	絶滅危惧 I 類
		クロウメモドキ科
選定理由	既知のすべての生育地で生育条件が著しく悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	落葉低木または小高木で、根元からよく分岐する。短枝は発達し、長枝の先端は刺になる。葉はふつつ対生し、長さ5-12cm、狭長楕円形で急尖頭。裏面は脈腋に少し毛がある。花は小型で、葉腋に束生する。	
生態的特徴	山地の高原に見られる。花期は5-6月。	
分布状況	本州(中部地方以北)に分布する。岐阜県においては県北の東部に見られる。	
減少要因	生育地の改変や、草地の管理不足による樹林化。	
保全対策	本種は樹林化がすすんで被圧されるようになると衰退していくため、草刈りや除伐など適度な人為的な管理を行い、日当たりのよい草地や疎らな低木林を維持する必要がある。	
特記事項	蝶類のヤマキチョウ、ミヤマカラスシジミの食樹としても重要。	
参考文献	「日本の野生植物 木本Ⅱ」(佐竹義輔ほか(編), 1989年)	

文責: 奥田浩之

